

受領の任命ずりよう

〔天仁元年正月〕てんにん 廿四日。にじゅう 空、快晴。太陽がたいそう明かるかった。夜になって参内した。さんだい 除目じもく（人事）の確定のためである。

（中略）

今度の除目のなかで、因幡守平正盛を但馬守に異動し、ならびに息子の盛康もりやすを右衛門尉うゑもんに任じ、平盛良もりよしを左兵衛尉さひょうゑいに任じた。これは、悪人源義親みなもとりのよしちかを追討した恩賞である。正盛自身はまだ上洛じょうらくしていないにもかかわらず、まずこの恩賞が行われたのである。その（追討の）恩賞（が行われること自体）は、適切であるとはいえ、正盛は最も地位の低い者として、第一国（の守）に任じられた。特別な寵愛ちようあいによるものであろうか。まったくなんとも言いようがない。院の近辺に仕えている人は、天が幸福をあたえる人ということだろうか。

（中略）

裏書に言うには、

受領の任命された状況

（中略）

但馬守平正盛へ元因幡守。悪人源義親を追討したことにより異動した。軍功（による）とはいっても、最も地位の低い者として、第一国（の守）に任じられた。世間では良しとしなかった。特に、まだ上洛する以前のことである。院の北面に仕えていることによるものである。〕

（下略）